古民家新聞

匠を感じる住まい

vol. 34

半泥子の千歳山荘、復元の夢！

自然とあるがままを愛した作風で「近代陶芸の父」とも評され、百五銀行第六代頭取を務めた実業家としても知られている川喜田半泥子（１８７８～１９６３）。（本名は川喜田久太夫政令）

１９１２年（明治45年）、半泥子は34歳の時に、市街を一望することができる津市垂水の千歳山に山荘を作る構想に着手しました。そして１９１５年、その山荘の中に、客人をもてなすための和館と洋館を建築（大江新太郎氏の設計）しました。この和館と洋館はこれから現在に至るまで数奇な運命を辿ることになります。

この建物は半泥子が当時の日本を代表するさまざまな文化人や経済人と交遊する迎賓館の役割を果たしていましたが、第二次世界大戦の戦局の悪化を背景に食糧難の折からこの役割を果たすことができなくなっていたため、１９４３年に鈴鹿市内の鈴鹿海軍工廠内に移築され、所有者を変えながらも１９８４年まで現存していました。その後、取り壊しの寸前で、奈良県内の民間団体が復元目的で解体。しかし再建は見送られ、それ以来解体された部材が行方不明となっていました。ところが近年、奈良県の民間団体の倉庫に放置されたままになっていた部材が発見されたのです。それも部材の大多数は健全でありほとんどの部材が揃った状態で！

２０１０年に行われた調査の結果、千歳山荘に復元が可能であることがわかり、復元された場合重要文化財級の価値を持つことが確認されました。また、２００８年に千歳山の敷地が川喜田家から津市に寄贈されており、公園としての千歳山の整備が望まれていました。津市は一時、復元に前向きな姿勢を見せましたが、数億円の費用がかかることもあって計画は頓挫。残念ながら現在の整備計画に和館・洋館の復元は盛り込まれていません。

発見された和館と洋館の解体部材

三重県古民家再生協会は「半泥子と千歳山の文化遺産を継承する会」の団体会員として千歳山荘の再建を応援しています。
寄付や署名でご協力いただける方は「半泥子と千歳山の文化遺産を継承する会」でHPを検索、または三重県古民家再生協会までご連絡をお願いいたします。
※写真は「半泥子と千歳山の会」が発行する「千歳山と川喜田半泥子の千歳山荘」からの転載です。

お問い合わせは
一般社団法人 三重県古民家再生協会
〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6　TEL059-366-3833　FAX059-361-1717　mail info@tap-s.com
kominka-mie.org